

新学習指導要領の下での学習評価の考え方と評価方法等についての解説(算数科編)

(2) 学年の目標の一覧表

| 第1学年 | 第2学年 | 第3学年 | 第4学年 | 第5学年 | 第6学年 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 数の概念とその表し方及び計算の意味を理解し、数と数との関係や理解の基礎となる数感を養い、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、加法及び減法の計算をしたり、形を構成したり、身の回りにおけるものの特徴を捉えたりする力。 | (1) 数の概念とその表し方を理解し、数の意味と性質、基本的な図形の概念、量の概念、簡単な表とグラフなどについて理解し、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、加法、減法及び乗法の計算をしたり、図形を構成したり、長さやかさなどを測定したりするなどのことについての技能を身に付けるようにする。 | (1) 数の表し方、整数の計算の意味と性質、小数及び分数の意味と表し方、基本的な図形の概念、量の概念、簡単な表とグラフなどについて理解し、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数などの計算をしたり、長さやかさなどを測定したり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。 | (1) 小数及び分数の意味と表し方、四角の関係、平面図形と立体図形、面積、角の大きさ、折れ線グラフなどについて理解するとともに、整数、小数及び分数の計算をしたり、図形を構成したり、面積や角の大きさなどを求めたり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。 | (1) 小数及び分数の計算の意味、小数と分数の計算の意味、面積の公式、図形の意味と性質、図形の体積、連立、割合、表やグラフなどについて理解するとともに、 | (1) 分数の計算の意味、文芸的な表現方法、図形の意味、図形の体積、数量分布を表す表などについて理解するとともに、 |
| (2) ものの形に着目し、具体的物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考える力。 | (2) 数とその表現や数量の関係に着目し、必要に応じて具体的な物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考える力。 | (2) 数とその表現や数量の関係に着目し、必要に応じて具体的な物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考える力。 | (2) 数とその表現や数量の関係に着目し、必要に応じて具体的な物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考える力。 | (2) 数とその表現や計算の意味に着目し、目的に合った表現方法を用いて数の性質や計算の仕方などを考える力。 | (2) 数とその表現や計算の意味に着目し、発展的に考察して問題を発見するとともに、目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方などを考える力。 |
| ものや図の形に着目して特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の特徴について考察したりする力。 | 平面図形の特徴や図形を構成する要素に着目して捉えたり、身の回りの事象や図形の性質から考察したりする力。 | 平面図形の特徴や図形を構成する要素に着目して捉えたり、身の回りの事象や図形の性質から考察したりする力。 | 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力。 | 図形を構成する要素や図形間の関係に着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力。 | 図形を構成する要素や図形間の関係に着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力。 |
| 身の回りにおけるものの特徴を捉えたり、身の回りの大きさの比べ方を考える力。 | 身の回りにおけるものの特徴を捉えたり、身の回りの事象をデータの表し方を用いて的確に表現する力。 | 身の回りにおけるものの特徴を捉えたり、身の回りの事象をデータの表し方を用いて的確に表現する力。 | 伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力。 | 伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式、グラフを用いて考察する力。 | 伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式、グラフを用いて考察する力。 |
| 身の回りの事象に着目して身の回りの事象の特徴を捉えたりする力。 | 身の回りの事象をデータの表し方を用いて的確に表現したり適切に判断したりする力などを養う。 | 身の回りの事象をデータの表し方を用いて的確に表現したり適切に判断したりする力などを養う。 | 目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力などを養う。 | 目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力などを養う。 | 身の回りの事象から設定した問題について、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して身の回りの事象をデータの表し方を用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力などを養う。 |
| (3) 数量的な表現や図形を用いて、数学的に表現・整理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付く生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | (3) 数量や図形に連んで振り返り、数学的に表現・整理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付く生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | (3) 数量や図形に連んで振り返り、数学的に表現・整理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付く生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | (3) 数学的に表現・整理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付く生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | (3) 数学的に表現・整理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付く生活や学習に活用しようとする態度を養う。 | (3) 数学的に表現・整理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付く生活や学習に活用しようとする態度を養う。 |

知識・技能に関する目標

思考力・判断力・表現力に関する目標

数量の変化や関係に着目して考察する力を育成するために統計教育の基礎の充実

主体的に学習に取り組む態度に関する目標

思考力・判断力・表現力等の評価において注意すること

※テストやプリントには、「思考・判断・表現」でなく、「知識・技能」の評価にしかならないものが多いので注意すること

例)【27mの縄を4mずつに切って、縄跳びの縄を作ります。何本取れて、何m余りますか。】
という問題について立式できた。これは、指導要領の除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っているにあたるので、「知識・技能」の観点にあたる。

例)【子どもが30人います。4人乗りの車に分かれて乗ります。みんなが乗るために車は何台あればよいですか。その理由を書きなさい。】
という問題について立式し、余りの2人がいるから、もう1台必要など記述していれば「思考・判断・表現」の観点にあたる。

テスト、プリントだけでは適切な評価ができない部分があるので、単元のなかで、「この時間にこの問題を解かせる」と決めておき、理由や図式化など思考のあとや流れが見えるよう全員ノートなどに書かせておくことが必要になる。

あゆみをつけるとして、具体的に項目にすると…

①知識及び技能

- 単元の理解度を見取る
 - 単元で計算、グラフに表すなど技能を見取る
- （テスト、適用題、プリント等）

②思考力・判断力・表現力等

- 単元に応じた考察する力を見取る（テスト、適用題、ノート、プリント、発言内容等）

③主体的に学習に取り組む態度

- 粘り強さ（積極性、進んで、粘り強くが見えるかどうか）
⇒人に相談・アドバイス、調べる、別の方法・解き方はないか、
もっとよりよい方法はないか考えようとしている など
 - 調整力（見通し、課題に沿って、今までの学習を生かして）
⇒見比べて変化・強化、熟慮、吟味、最初と最後の変容（なぜ、そうした？それを選んだ？）
他の場面（生活場面を含む）でそれを活用しようとしている。
具体物や図や式を関連付けて考えようとしている。
- 単元ごとではなく、学期を通してこの項目で見取り、ふり返りをして、それらをまとめて判定する

- 特に自らの調整が必要となる言語活動場面（自分で決め、調べ、考え、作る活動）

①②については、テストと狙って取りに行く適用題で評価できると考える。また、授業中の説明している発言内容も思考を見取れるところになる。

主体的に学習に取り組む態度が表出するような学習場面を、授業者が作ること。思考の時間を取らずに教える、毎時間先生が一方向的に指名して進めていく授業にならないように注意すること。

データベースのメリット・デメリット

- プリント作成が簡単（自習準備、宿題作成、夏冬休みの宿題作成、できる子へのチャレンジ問題など）
 - 教室でスクリーンに映せばその場で練習問題ができる。
 - 家でも作業ができる（スマホからもアクセスできる）
 - 選ぶために自然と重点を置く内容項目が明確になる。
 - 思考を書くスペースがない。
- テストもデータベースもさほど内容が変わりませんでした。評価を取る質の面で変わらないのであればテストは買わなくてもいいのでは…

スペースがあいたので…

授業中に先生が評価する理由は、できない子を見取り指導してできるようにするため。力がつくように指導する。それを見取るために適用題をする。そこで適用題ができていなかったから出来るように指導をする。その結果、単元末にその子ができるようになっていたら、「C」をつけなくてよくなる。指導したことを評価し、それを指導にいかす。これが指導と評価の一体化。

今回の改訂では、この子ども一人一人の学びを見取り、指導にどうかすか（形成的評価）を重視することが求められています。